

令和3年度企業版ふるさと納税活用事業(案)

資料3-3

1. 包括的な地域再生計画

地域再生計画名: 埼玉県まち・ひと・しごと創生推進計画
計画期間: 令和2年度～令和6年度

(1) 取組内容

事業名	分野	基本目標	事業内容及び結果	寄附企業数 寄附額
<p>渋沢栄一翁を軸とした観光振興や創業プロジェクトの推進</p> <p>※令和2年度から継続実施</p>	観光	基本目標2	<p>渋沢栄一翁が新一万円札の肖像に選ばれ、大河ドラマの主人公にも決定したことを好機と捉え、地元深谷市などと連携し、県内外からの観光客誘致を図る。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○渋沢栄一版人生ゲームの制作、児童館等への寄贈 ○三偉人ゆかりの地を巡る日帰りバスツアーの実施 ○三偉人およびゆかりの地の魅力をPRする冊子の制作 ○県内外の鉄道駅でのPR冊子配布及び物産展の実施 ○三偉人検定の実施 <p>【結果】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあったが、県外発着のバスツアーの実施や鉄道駅での広報、物産展の開催等県内外に対して渋沢栄一翁及びゆかりの地である本県の魅力について広く周知を行うことができた。また、渋沢栄一版人生ゲームは県外の博物館でのイベントに使用されるなど、大きな注目を集めた。今後も新型コロナウイルス感染症の収束を見据えながら、引き続き事業を推進し、観光客誘致を図る。</p>	17社 1452万円
	産業	基本目標1	<p>渋沢栄一翁の理念を受け継ぐ起業家や起業希望者、ベンチャー企業を支援することにより、新産業の創出や地域経済の活性化を促進する。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的インパクトを与える新たなサービスの開発等で、社会課題の解決を目指す起業希望者に対して、地域で活躍する先輩起業家等によるメンタリング及び伴走支援型の支援を行うことで、創業の促進とともに、成長の加速を図る。 ・アクセラレーションプログラムの実施 ・先輩起業家等によるメンタリング ・伴走支援の実施 ・社会課題の解決につながる創業支援事業補助金 <p>○起業家や異業種の企業が交流し、マッチングが創造される場となる「(仮称)渋沢栄一起業家サロン」を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチングの場の創造に向けた関係者等へのヒアリング、方針や有識者会議設置に向けた検討 <p>【結果】</p> <p>伴走支援対象者17者のうち、10社が創業を実現した。マッチングの場の創造に向けた関係者等へのヒアリングを実施し、方針案の検討を行った。</p>	
<p>子ども食堂応援プロジェクト</p> <p>※令和元年度から継続実施</p>	少子化	基本目標3	<p>子ども食堂等の子供の居場所を、地域の力を結集して運営する「地域のキーステーション」と位置づけ、県内に800か所程度(子供が安全に歩いて通える距離とされる小学校区の数と同等程度)を目標に、本県全域で取組を展開することで、地域全体で子供を育てる社会の実現を図る。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の居場所づくりアドバイザーの派遣による活動の立ち上げ支援 ○SNSでの情報発信、子ども食堂フォーラムの開催や出前講座の実施等を通じた子供の貧困の問題についての啓発活動の実施 ○「こども応援ネットワーク埼玉」を通じた子供の居場所運営団体と支援企業等のマッチング <p>【結果】</p> <p>令和3年10月末時点で456か所の子供の居場所が整備されており、社会全体で子供を支える環境づくりが進んでいる。</p>	
<p>埼玉の川の再生「川の国埼玉」を目指して</p> <p>※令和元年度から継続実施</p>	観光	基本目標2	<p>「川の国埼玉」を県内外に浸透させ、県内の水辺に人を集めるため、ワークショップの開催やYouTube動画によるPR事業を実施するとともに、民間企業のノウハウを活用し、多彩な水辺空間を創出する。</p> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水辺空間利活用を検討するためのワークショップ開催(越谷レイクタウン) ○県公式観光Webサイト「ちょこたび埼玉」と連携し、川の絶景スポット、ダム、砂防堰堤(土木遺産)のPR動画制作とWebサイト上での情報発信(その他) ○水辺空間の整備や新たな魅力スポットの創出(川の国埼玉はつらつプロジェクト) ○河川敷地を民間事業者等が活用できる「都市・地域等再生利用区域」の指定(水辺空間とことん活用プロジェクト) ○民間事業者等と連携した河川空間利活用の取組(水辺deベンチャーチャレンジ) <p>【結果】</p> <p>令和3年度も前年度と同様、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響やオーバーツーリズム対策により、川遊びスポットの大半が営業自粛や利用者数を制限したうえ、飯能河原の一時閉鎖もあったことから、県管理河川における川遊びスポットの夏期(7～8月)入込客数は15.4万人となり、前年度(17.2万人)を下回った。県では令和3年度から「Next川の再生『水辺deベンチャーチャレンジ』」として、地域の方々や川の活動団体、民間事業者など多様な主体と連携し、これまでの川の再生のノウハウや民間のアイデアを生かして、より魅力ある河川空間の整備を進めており、これらの事業と連携しながら、引き続き情報発信を行うことで、集客を図っていく。</p>	
<p>中小企業CO2削減対策見える化支援事業</p> <p>※令和3年度に実施</p>	産業	基本目標1	<p>中小企業への省エネ対策支援として、CO2削減対策を進める排出量取引制度対象の中小企業(令和3年度新規対象約60事業所)に対して、CO2の削減状況や対策の実施状況を点検する。中小企業のCO2削減の底上げを図るため、この結果を業種ごとに集計し、CO2削減分析カルテとしてまとめフィードバックするとともに、抽出した優良な対策事例を広く展開する。</p> <p>【主な取組(企業版ふるさと納税活用事業)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象事業所への書面調査・集計分析・事業者へのフィードバック ○優良な取組事例の抽出・展開、実施事業者の表彰(その他) ○対象となる事業所の無料省エネ診断事業・CO2削減設備導入補助(中小企業等省エネルギー対策支援事業) <p>【結果】</p> <p>中小企業のうち多量の排出を行う事業所(67事業所)について、自社の削減対策の取組程度を確認することができた。併せて、優良な削減対策を実施する20事業所に訪問等調査を行い、うち13事業所の取組を事例集としてまとめ周知・展開を行い、さらに4事業所を特に優れた事業所として表彰した。今後は、対象業種を拡大し同様の調査を行うとともに、比較的対策の遅れている事業所のフォローアップ調査・支援等を行っていく。</p>	

(2) 数値目標

基本目標	KPI 重要業績評価指標	実績値(a)	達成率 (a/b)	検証結果(案)
		目標値(b)		
基本目標1 県内における安定した雇用を創出する	経営革新支援、次世代産業・先端産業支援及び企業誘致による付加価値創出額	2,719億円 [2,271億円]	119.7%	積極的な企業誘致、経営革新支援を行う企業の積極的な掘り起し、次世代産業・先端産業支援についての支援企業の事業化促進・販路開拓支援により、目標値を達成した。
基本目標2 県内への新しいひとの流れをつくる	人口の社会増の維持 (全年齢)	22,479人 [17,036人]	131.9%	人口の社会増の維持(0~14歳)は、全国的に年少人口が減少し、年少人口の社会移動も縮小する中、全国2位ながら年度目標を下回った。
	人口の社会増の維持 (0~14歳)	3,074人 [3,440人]	89.4%	
基本目標3 県民の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率[概算値]	1.22 [1.50]	81.3%	未婚化の進行などの影響により、目標値を下回った。

2. 個別地域再生計画

No.	地域再生計画名	期間	分野	事業内容	重要業績評価指標(KPI)	実績値(a) 目標値(b)	達成率 (a/b)	検証結果(案)
1	子ども食堂応援プロジェクト 包括的な計画で引き続き実施	R1～ 3年度	少子化	子ども食堂等の子供の居場所を、地域の力を結集して運営する「地域のキーステーション」と位置づけ、県内に800か所程度(子供が安全に歩いて通える距離とされる小学校区の数と同等程度)を目標に、本県全域で取組を展開することで、地域全体で子供を育てる社会の実現を図る。 【主な取組】 ○子供の居場所づくりアドバイザーの派遣による活動の立ち上げ支援 ○SNSでの情報発信、子ども食堂フォーラムの開催や出前講座の実施等を通じた子供の貧困の問題についての啓発活動の実施 ○「こども応援ネットワーク埼玉」を通じた子供の居場所運営団体と支援企業等のマッチング	子供の居場所*の数 * 子ども食堂、学習支援の場、プレーパーク等	456か所 [464か所]	98.3%	令和3年10月末時点の実績値は目標値を下回っているが、現在集計中の実績値(令和4年8月末頃に確定)では、目標を達成する見込みである。 引き続き、社会全体で子供を支える環境づくりを進めていく。
2	埼玉の川の再生 「川の国埼玉」を目指して 包括的な計画で引き続き実施	R1～ 3年度	観光	「川の国埼玉」を県内外に浸透させ、県内の水辺に人を集めるため、ワークショップの開催やYouTube動画によるPR事業を実施するとともに、民間企業のノウハウを活用し、多彩な水辺空間を創出する。 【主な取組】 ○水辺空間利活用を検討するためのワークショップ開催(越谷レイクタウン) ○県公式観光Webサイト「ちょこたび埼玉」と連携し、川の絶景スポット、ダム、砂防堰堤(土木遺産)のPR動画制作とWebサイト上での情報発信(その他) ○水辺空間の整備や新たな魅力スポットの創出(川の国埼玉はつらつプロジェクト) ○河川敷地を民間事業者等が活用できる「都市・地域等再生利用区域」の指定(水辺空間とことん活用プロジェクト) ○民間事業者等と連携した河川空間利活用の取組(水辺deベンチャーチャレンジ)	県管理河川における川遊びスポットの夏期入込客数(7～8月)	15.4万人 [30.0万人]	51.3%	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響やオーバーツーリズム対策により、川遊びスポットの大半が営業自粛や利用者数を制限したうえ、飯能河原の一時閉鎖もあったことから、目標を下回った。 引き続き、「Next川の再生『水辺deベンチャーチャレンジ』」として、地域の方々や川の活動団体、民間事業者など多様な主体と連携し、これまでの川の再生のノウハウや民間のアイデアを生かして、より魅力ある河川空間の整備を進めており、これらの事業と連携しながら、情報発信を行うことで、集客を図っていく。